

希望を語る

2000 年 8 月発足

22 年の歴史を持つ患者会“希望を語る会”ニュースレター



希望を語る会事務局：健康増進クリニック

Tel 03-3237-1777 Fax 03-3237-1778

www.kenkou-zoushin.com info@kenkou-zoushin.com

分析医学の限界としてのワクチン

院長 水上 治

コロナ禍でもう 2 年半経ち、ワクチン接種をおそらくほぼ世界一真面目に受けてマスクをしている日本人が、今までで一番罹患数が多く、現時点で世界一でもあることを、どう解釈したらいいのでしょうか。次々に変異型が出て、重症化率が減っているものの、若い人を中心に罹患率が上がっています。確かに私の身近にも感染者が増えています。医療現場では関係者は疲弊しきっています。わが国でも世界的にも、接種者の罹患率が増えているという報告もありますが、幸い重症化抑制効果はあるようです。

ある医師は、「罹患率が最多なのだから、これは西洋医学の敗北だ」、と断じました。西洋医学は鋭い分析力で、細胞を詳細に遺伝子・分子レベルまで分析し、生命の本質に迫ろうとしてきました。しかし新しいウイルス感染症に対し、時に死に至る副作用が起るワクチンのみに頼るしかないという厚労省の指針には、大きな疑問を持ちます。未だ特効薬もないという厳しい現実です。

この事実は、分析に頼る西洋医学自体の限界を露呈しています。ウイルスといえども自然の一部です。私の考え方は保守的すぎるかもしれませんが、メッセンジャー RNA という自然の一部を、人間の都合でいじっていいのでしょうか。自然を切り取ったり加工したりすることは、自然からしっぺ返しを食らわないのでしょうか。様々な研究により、ワクチン接種といういわば人工的な環境は、人工的に抗体を量産させ、自然感染とは違う体内環境を作り、必死に生き延びようとするウイルスは変異を繰り返すのです。スペイン風邪がほぼ 2 年で収束したことを考えると、大半がワクチンを接種している日本では、収束が遅くなるのではと心配しております。

倒れて皆さんに迷惑をかけたくない私は、悩みながらワクチンを 2 回打っておりますから、反対論者ではありませんが、もし罹っても軽く済むように、各自が免疫力を上げる生き方をすることの方が大切であると確信しています。



イソヒヨドリ S.S.

亡夫がつくった
庭の水のみ場に
いろいろな鳥が
飛んできて
仲よく水あびをしている
きちんと逝きたい
その思いの中で
今朝も深呼吸
長生きと云う
大きな課題

五行歌 小林美智代さま

ミーコねーちゃんの絵手紙

佐藤美恵さま



この作品は 2012 年の頃の作品です。
佐藤様は H7 年に脳梗塞で左半身麻痺となり、H24 年より当院にて鍼治療を開始しました。元副院長の加藤医師の勧めで始めた絵手紙。もともとは右利きですが、左の麻痺を克服するために、左手で書いています。

蛍

浅野伸一さま

蛍といえば、きれいな水辺に棲む源氏ホタルや平家ホタルを思い浮かべるかも知れません。ですが、日本には 40 種以上の蛍がいて、しかも沖縄には 20 種の蛍が棲んでいます。1 年を通じて蛍に出会うことが出来るといいます。

子どもの頃、雨上がりの夜、家の中にまで飛んできた蛍を蚊帳の中に入れて、うちわであおってはしゃいだ懐かしい思い出が目には浮かびます。光の明滅が、関西では 2 秒に 1 回、関東では 4 秒に 1 回とか。その理由はわかりません。

ほっ ほっ ホタルこい こっちの水は甘いぞ



世界医療視察 5

～ブラジルという原始の大地～

院長 水上 治

勤務医時代、アガリクスやプロポリスを患者さんに勧めるようになってから、ブラジルは私の憧れの地でした。文明を拒否するようなアマゾンに生える草木は、さまざまな薬効があるでしょうし、原始に近い太陽や大地を体験してみたい、そう願っていました。

2003年8月念願のブラジル行きが実現しました。合計丸1日という飛行時間は、意外と疲れませんでした。早速、アガリクスの研究会が開かれる、サンパウロ近くの大学へ行き、私も英語で発表しました（写真1）。それを通訳がポルトガル語に直すのですが、何とか終えてほっとしたのを覚えています。

その後、近くで露地栽培のアガリクスを栽培しているのを見せてくれるとのことで出かけましたが、何と云うことか、めったにない寒い冬とのことで（あちらは真冬）、アガリクスが生えてこない!!のです。でも、広大な畑を見ることができました（写真2）。

次にいよいよアマゾン行きです。北の方角のマナウスに飛び、そこから小船で、アマゾンの真ん中に入ります。アマゾン川は堂々と流れていますが、万一川に落ちるとピラニアの餌食になるかもしれません。アマゾン川に入る夕日のきれいなこと。感動して見とれてしまいました（写真3）。

次の日は、歩いてジャングルを探検。もちろん全く知らない木や草ですが、現地人の説明を聞きながら歩きます。癌に効くという薬木もありました。まだ、未知のこのような資源の中に、今後人類の健康に役立つものが多く含まれているのでしょう（写真4）。3000種類という薬木にアメリカの企業あたりが注目しているらしいのです。ワニ釣り、ピラニア釣りもおもしろかった体験です。

それから最後は、イグアスの滝です。アルゼンチンにも入国して、こちら側からも見ます。その迫力は表現のしようがなく、悪魔の喉笛という巨大な滝壺を見下ろす地点に立った時（写真5）ゴーゴーという音と共に、落ちたら生きて帰れないという恐怖心に襲われました。その後サンパウロ経由で帰国しました。

今から思うと、ブラジル行が、標準治療から自然療法への回帰への動機付けになった、人生の節目となる旅行でした。



写真3 アマゾン川の日没



写真1 若いですね



写真2 アガリクスの生えていない畑



写真5
イグアスの滝
悪魔の喉笛

写真4
アマゾンの
ジャングル



《院内セミナー》水上医師

9/6（火） 10：30～

10/4（火） 10：30～

※8月のレクチャーはお休みです

がん・難病・健康回復の
最新情報をお話した上で
皆さんを交えた意見交換を致します

9月のタイトル「癌と共存する方法」

★ 診療についての重要なお知らせ ★

8月・9月の日曜開院日： 8/7 & 21 9/4 & 25

引き続き除菌作業を行いながら診療させていただきます
患者さまにも、マスク着用と手指の消毒のご協力をお願いいたします
ご不便をおかけいたしますがどうぞよろしくお願いいたします

曜日	治療時間	電話受付
月・火・木・金	9：30～16：30	9：15～16：00
日曜日（月2回）	9：00～14：00	8：45～14：00
※ 定休日：水曜日／土曜日／祝祭日 ※ 日曜日の院長外来を受け付けます		

🌸 今月のお花 🌸 レンギョウ・グロリオサ・エキナセア



グロリオサの花言葉「栄光」「勇敢」

夏は暑いのが当たり前ですが、ちょっと暑すぎですね。お手柔らかにお願いしたいものです。

今月のお花はエキゾチックなお花ですが、涼し気な籠に生けてみました。生け花では昔から使われていた籠ですが、最近は職人さんの数が減り、手に入り辛くなって来ています。生け花もそうですが、日本の伝統文化を大切に守っていかねばとつくづく思いました。

8月は例年、残暑に台風。どうか穏やかな残暑になりますように。 M.I

★「希望を語る」は患者さまの体験談や、また特技を生かしたメッセージ、いま語りたい事、その他何でも、情報交換の場を提供させていただく冊子です。写真や原稿などございましたら是非、事務所またはスタッフまでお知らせください。お待ちしております。